景 気 ウ ォ ッ チ ャ ー 調 査

Economy Watchers Survey

平成 18 年 8 月調査結果

平成 18 年９月８日

内 閣 府 政 策 統 括 官 室
（経済財政分析担当）

今月の動き（８月）

８月の現状判断ＤＩは、前月比 1.8 ポイント上昇の 50.2 となった。

家計動向関連ＤＩは、天候が回復し、夏物商品の動きが良かったことに加え、行楽需要も堅調であったことから持ち直した。企業動向関連ＤＩは、一部で受注の増加に頭打ち感が見えていることに加えて、全般的に原油・原材料価格の上昇の影響が継続していることから、低下した。雇用関連ＤＩは、企業の採用意欲が引き続き高いことから、上昇した。この結果、現状判断ＤＩは５か月ぶりに上昇し、３か月ぶりに横ばいを示す 50 をわずかに上回った。

８月の先行き判断ＤＩは、前月比 1.7 ポイント上昇の 51.5 となった。

先行き判断ＤＩは、製造業への原油価格上昇の影響が特に懸念されるものの、消費意欲は安定的に推移すると指摘する声もあり、６か月ぶりに上昇した。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、景気は回復が緩やかになっているとのことであった。

目　　次

調査の概要　2
利用上の注意　4
ＤＩの算出方法　4

調査結果　5

Ⅰ．全国の動向　6
　１．景気の現状判断ＤＩ　6
　２．景気の先行き判断ＤＩ　7
II．各地域の動向　8
　１．景気の現状判断ＤＩ　8
　２．景気の先行き判断ＤＩ　10
III．景気判断理由の概要　12
（参考）景気の現状水準判断ＤＩ　25

調査の概要

1．調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

2．調査の範囲

(1)　対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の 11 地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。（なお、平成 12 年１月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の５地域、平成 12 年２月調査から９月調査までの対象地域は、これら５地域に関東を加えた６地域である。）

地域		都道府県
北海道		北海道
東北		青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海		静岡、岐阜、愛知、三重
北陸		富山、石川、福井
近畿		滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国		鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国		徳島、香川、愛媛、高知
九州		福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄		沖縄
全国		上記の計

(2)　調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した 2,050 人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、別紙を参照のこと。

3．調査事項

(1)　景気の現状に対する判断（方向性）
(2)　（1）の理由
(3)　（2）の追加説明及び具体的状況の説明
(4)　景気の先行きに対する判断（方向性）
(5)　（4）の理由
(参考)　景気の現状に対する判断（水準）

4．調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。

５．調査機関及び系統

内閣府が主管し、各調査対象地域に地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」を１か所ずつ設けるとともに、各地域別調査機関による地域ごとの調査結果を集計・分析する「取りまとめ調査機関」を１か所設け、これらの機関に本調査業務を委託して実施したものである。

（取りまとめ調査機関）		財団法人　日本経済研究所
（地域別調査機関）	北海道	株式会社　北海道二十一世紀総合研究所
	東　北	財団法人　東北開発研究センター
	北関東	財団法人　日本経済研究所
	南関東	財団法人　日本経済研究所
	東　海	三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社
	北　陸	財団法人　北陸経済研究所
	近　畿	りそな総合研究所株式会社
	中　国	社団法人　中国地方総合研究センター
	四　国	四国経済連合会
	九　州	財団法人　九州経済調査協会
	沖　縄	財団法人　南西地域産業活性化センター

６．有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130 人	111 人	85.4%	近畿	290 人	236 人	81.4%
東北	210 人	204 人	97.1%	中国	170 人	169 人	99.4%
北関東	200 人	166 人	83.0%	四国	110 人	89 人	80.9%
南関東	330 人	281 人	85.2%	九州	210 人	165 人	78.6%
東海	250 人	208 人	83.2%	沖縄	50 人	40 人	80.0%
北陸	100 人	99 人	99.0%	全国	2,050 人	1,768 人	86.2%

利用上の注意

１．分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
２．表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

ＤＩの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する５段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じて、ＤＩを算出している。

評価	良く なっている 良くなる （良い）	やや良く なっている やや良くなる （やや良い）	変わらない 変わらない （どちらとも いえない）	やや悪く なっている やや悪くなる （やや悪い）	悪く なっている 悪くなる （悪い）
点数	＋１	＋０．７５	＋０．５	＋０．２５	０

調　査　結　果

Ⅰ．全国の動向
　１．景気の現状判断ＤＩ
　２．景気の先行き判断ＤＩ
II．各地域の動向
　１．景気の現状判断ＤＩ
　２．景気の先行き判断ＤＩ
III．景気判断理由の概要
（参考）景気の現状水準判断ＤＩ

(備考)

１．「Ⅲ．景気判断理由の概要　全国」（12 頁）は、「現状」、「先行き」ごとに区分した３分野（「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」）に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、５つの回答区分（「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」）ごとに判断が良い順に掲載した。

２．「現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移」（13 頁）は、全国の「現状判断」の回答のうち３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数の多い上位３区分（雇用関連は上位２区分）の判断理由として特に着目した点について、直近３か月分の回答者数を掲載した。

３．14～24 頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数が多かった上位３区分（雇用関連は上位２区分）を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は３分野それぞれについて、５つの回答区分の中で回答者数が多かった上位２区分（雇用関連は上位１区分）を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

Ⅰ．全国の動向

１．景気の現状判断ＤＩ

３か月前と比較しての景気の現状に対する判断ＤＩは、50.2 となった。企業動向関連は低下したものの、家計動向関連、雇用関連のＤＩが上昇したことから、前月を 1.8 ポイント上回り、５か月ぶりの上昇となった。また、横ばいを示す 50 を３か月ぶりに上回った。

図表１　景気の現状判断ＤＩ

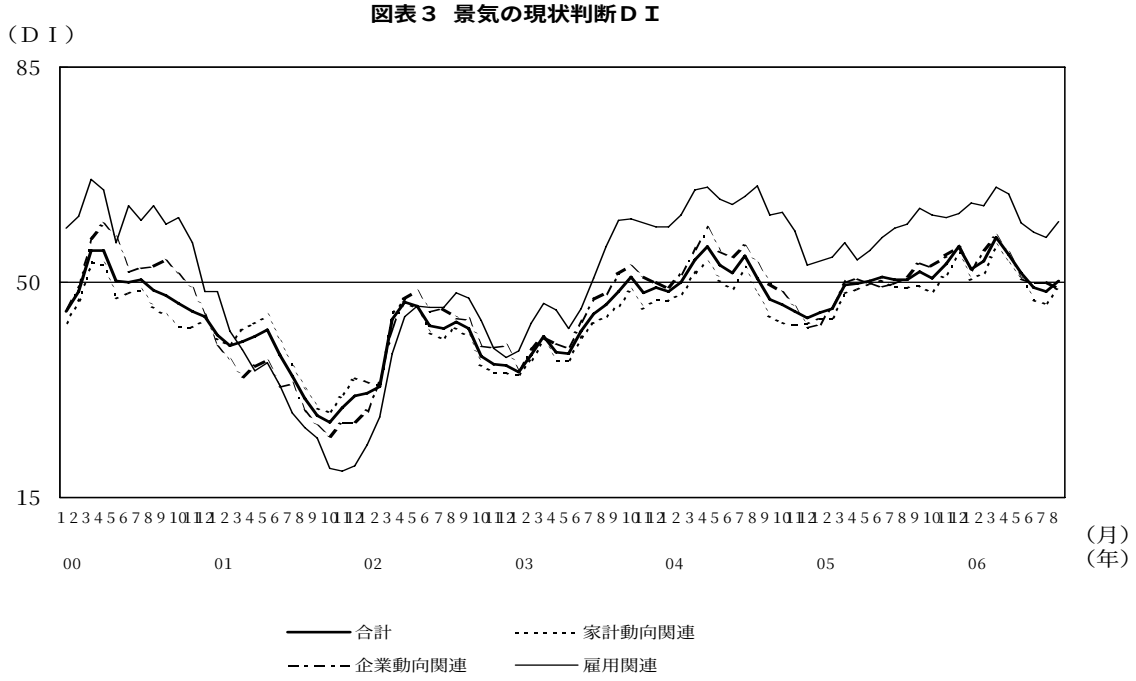
（ＤＩ）　年　2006

月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
合計	57.3	54.6	51.5	49.1	48.4	50.2	(1.8)
家計動向関連	56.0	53.1	50.6	47.3	46.5	49.1	(2.6)
小売関連	55.4	51.1	49.3	45.8	44.8	48.8	(4.0)
飲食関連	56.1	56.1	50.3	46.3	48.8	43.9	(-4.9)
サービス関連	57.0	55.6	53.1	50.2	48.2	50.5	(2.3)
住宅関連	56.6	56.0	51.5	50.0	51.2	51.9	(0.7)
企業動向関連	57.5	54.7	50.6	50.1	50.1	49.1	(-1.0)
製造業	56.2	52.3	47.8	49.9	48.3	46.8	(-1.5)
非製造業	59.1	57.9	53.8	51.1	51.3	51.0	(-0.3)
雇用関連	65.5	64.4	59.6	58.2	57.2	59.8	(2.6)

図表２　構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	ＤＩ
2006	6	2.2%	20.1%	53.5%	20.2%	4.0%	49.1
	7	1.8%	20.2%	52.5%	21.0%	4.6%	48.4
	8	2.9%	21.8%	52.1%	19.6%	3.5%	50.2
(前月差)		(1.1)	(1.6)	(-0.4)	(-1.4)	(-1.1)	(1.8)

図表３　景気の現状判断ＤＩ



２．景気の先行き判断ＤＩ

２～３か月先の景気の先行きに対する判断ＤＩは、51.5 となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのＤＩが上昇したことから、前月を 1.7 ポイント上回り、６か月ぶりの上昇となった。また、横ばいを示す 50 を２か月ぶりに上回った。

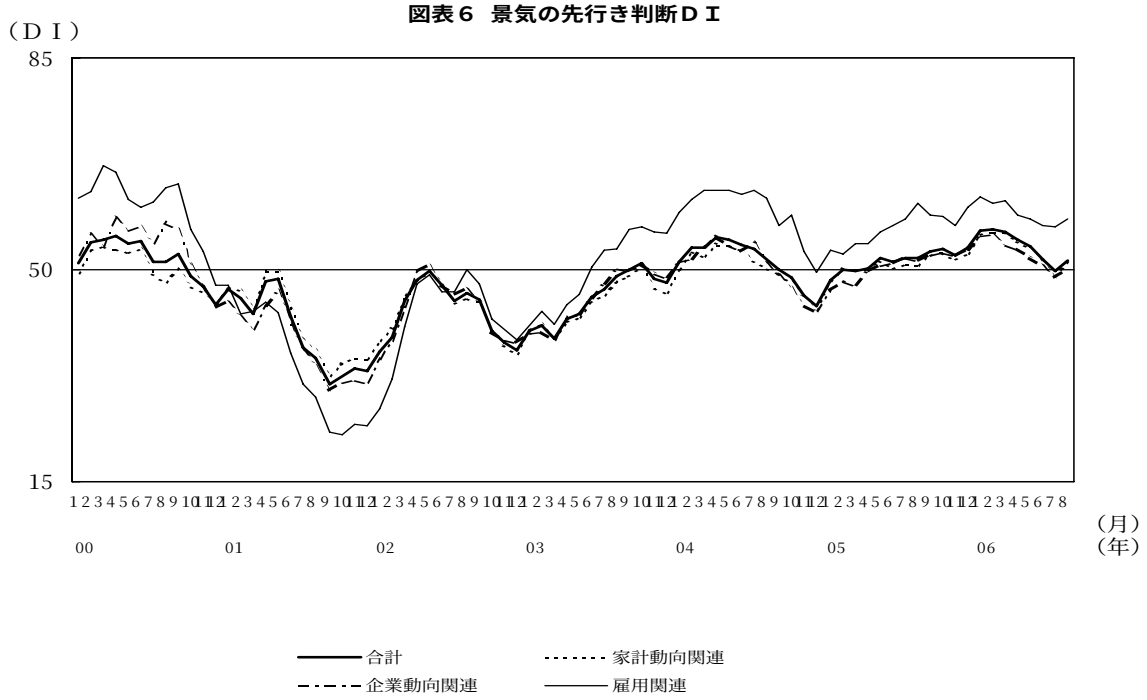
図表４　景気の先行き判断ＤＩ

（ＤＩ）　年	2006						
月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
合計	56.2	55.0	53.8	51.8	49.8	51.5	(1.7)
家計動向関連	56.2	54.8	53.6	51.3	49.0	51.0	(2.0)
小売関連	55.5	54.3	52.4	50.2	47.3	50.3	(3.0)
飲食関連	55.5	51.5	53.5	50.6	47.5	50.6	(3.1)
サービス関連	57.4	56.6	56.3	53.8	51.9	52.4	(0.5)
住宅関連	57.2	55.4	53.1	51.8	52.5	51.9	(-0.6)
企業動向関連	54.0	53.5	52.0	50.7	48.8	49.9	(1.1)
製造業	51.8	52.9	51.1	50.4	50.0	48.1	(-1.9)
非製造業	56.7	55.0	53.3	51.0	47.6	51.3	(3.7)
雇用関連	61.3	59.1	58.4	57.4	57.0	58.4	(1.4)

図表５　構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	ＤＩ
2006	6	2.9%	23.0%	55.7%	15.5%	2.9%	51.8
	7	1.9%	21.3%	54.6%	18.6%	3.7%	49.8
	8	2.8%	23.0%	54.6%	16.7%	2.8%	51.5
(前月差)		(0.9)	(1.7)	(0.0)	(-1.9)	(-0.9)	(1.7)

図表６　景気の先行き判断ＤＩ



II．各地域の動向

１．景気の現状判断ＤＩ

前月と比較しての現状判断ＤＩ（各分野計）は、全国 11 地域中、９地域で上昇、１地域で横ばい、１地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは沖縄（8.2 ポイント上昇）、低下したのは北関東（1.2 ポイント低下）であった。

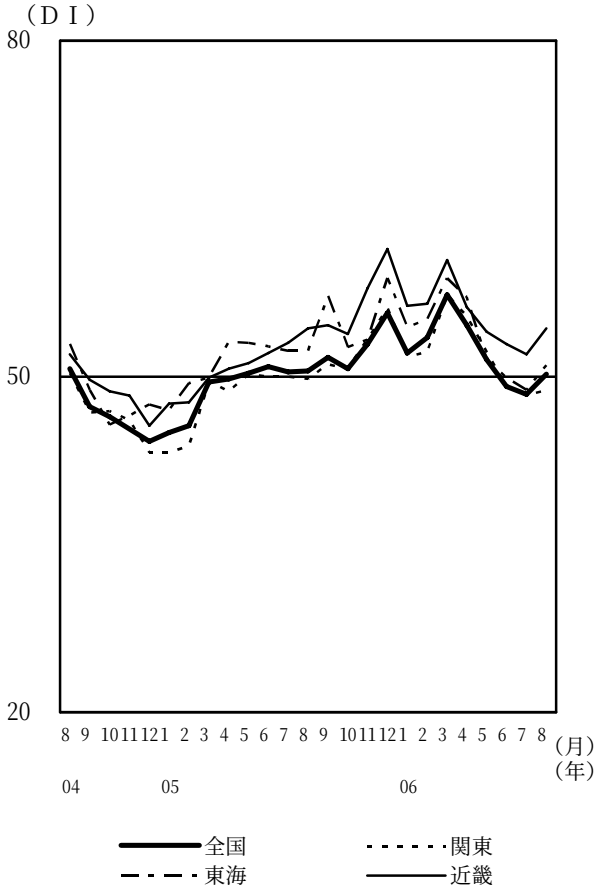
図表７　景気の現状判断ＤＩ（各分野計）

（ＤＩ）　年	2006						
月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国	57.3	54.6	51.5	49.1	48.4	50.2	(1.8)
北海道	55.4	54.4	54.1	48.7	49.1	51.8	(2.7)
東北	52.2	51.8	48.9	48.9	45.3	49.6	(4.3)
関東	57.3	55.4	52.2	49.1	48.3	48.8	(0.5)
北関東	55.9	54.8	50.6	48.8	48.6	47.4	(-1.2)
南関東	58.2	55.7	53.2	49.3	48.1	49.6	(1.5)
東海	58.8	57.1	51.5	49.9	48.8	51.0	(2.2)
北陸	56.3	53.8	52.0	48.8	48.2	49.0	(0.8)
近畿	60.4	56.2	54.0	52.9	52.0	54.3	(2.3)
中国	58.5	54.4	51.5	48.4	47.3	49.4	(2.1)
四国	55.6	54.0	46.7	43.8	47.8	48.6	(0.8)
九州	58.7	52.6	51.2	46.7	47.4	47.4	(0.0)
沖縄	56.1	51.9	48.2	49.3	50.6	58.8	(8.2)

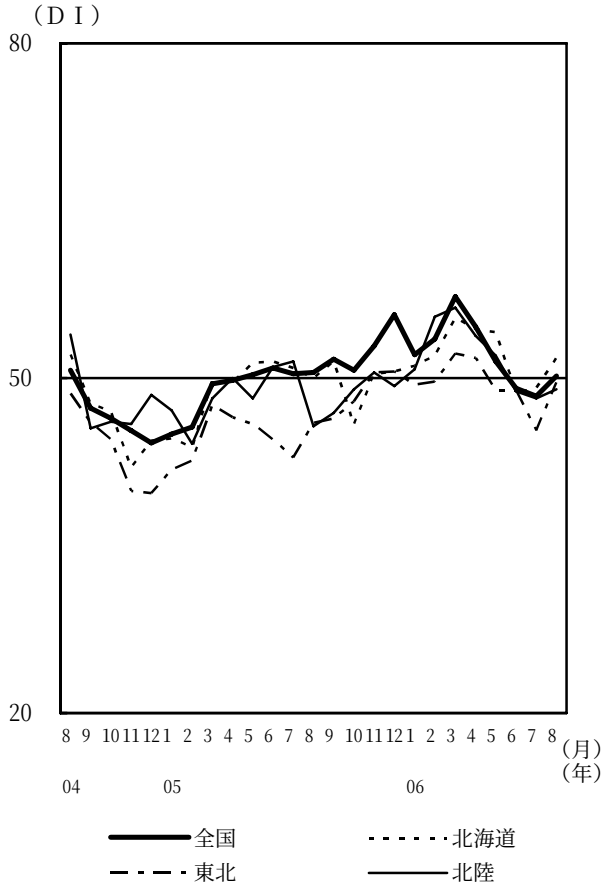
図表８　景気の現状判断ＤＩ（家計動向関連）

（ＤＩ）　年	2006						
月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国	56.0	53.1	50.6	47.3	46.5	49.1	(2.6)
北海道	53.4	53.0	53.4	47.2	47.8	51.3	(3.5)
東北	51.1	50.6	48.5	47.6	43.7	47.0	(3.3)
関東	56.1	54.5	51.2	46.8	46.1	47.3	(1.2)
北関東	54.0	54.2	50.7	46.4	47.1	46.3	(-0.8)
南関東	57.3	54.7	51.5	47.1	45.5	47.9	(2.4)
東海	57.6	55.1	50.2	48.8	47.1	50.7	(3.6)
北陸	54.4	52.5	53.6	47.5	46.0	48.2	(2.2)
近畿	59.0	54.4	53.0	51.5	50.0	54.5	(4.5)
中国	56.6	51.7	48.9	46.8	45.3	47.9	(2.6)
四国	56.3	54.2	44.8	39.5	45.8	47.8	(2.0)
九州	56.3	48.9	50.2	44.9	46.4	45.3	(-1.1)
沖縄	59.3	53.8	48.1	48.9	47.2	63.0	(15.8)

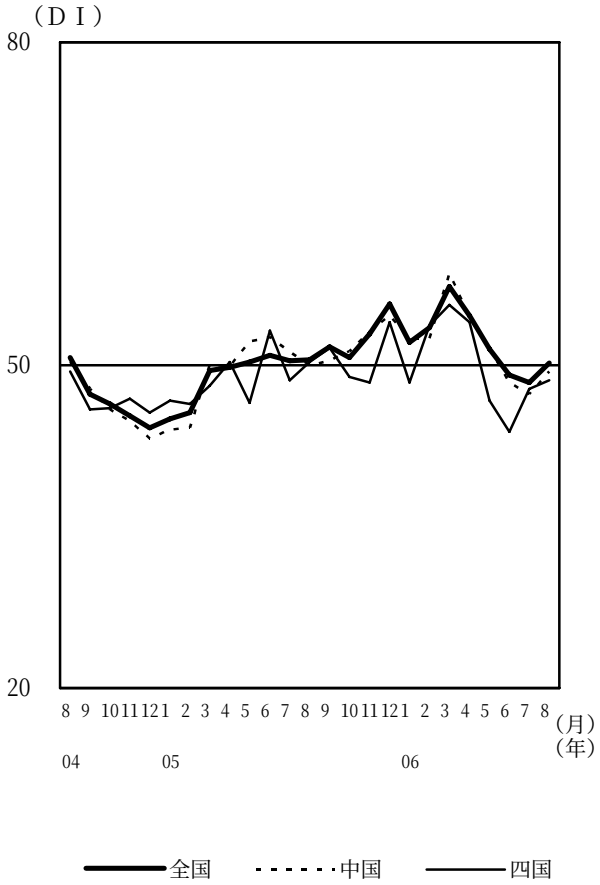
図表９　地域別ＤＩ(各分野計)
（大都市圏）



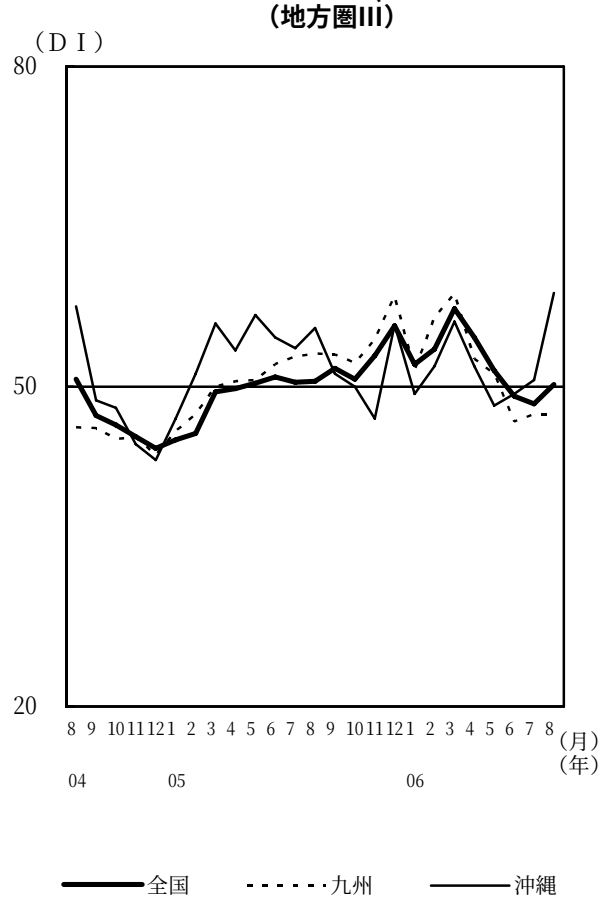
図表10　地域別ＤＩ（各分野計）
（地方圏Ｉ）



図表11　地域別ＤＩ（各分野計）
（地方圏II）



図表12　地域別ＤＩ(各分野計)
（地方圏III）



２．景気の先行き判断ＤＩ

前月と比較しての先行き判断ＤＩ（各分野計）は、全国 11 地域中、９地域で上昇、２地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは沖縄（5.5 ポイント上昇)、最も低下幅が大きかったのは北海道(0.7 ポイント低下)であった。

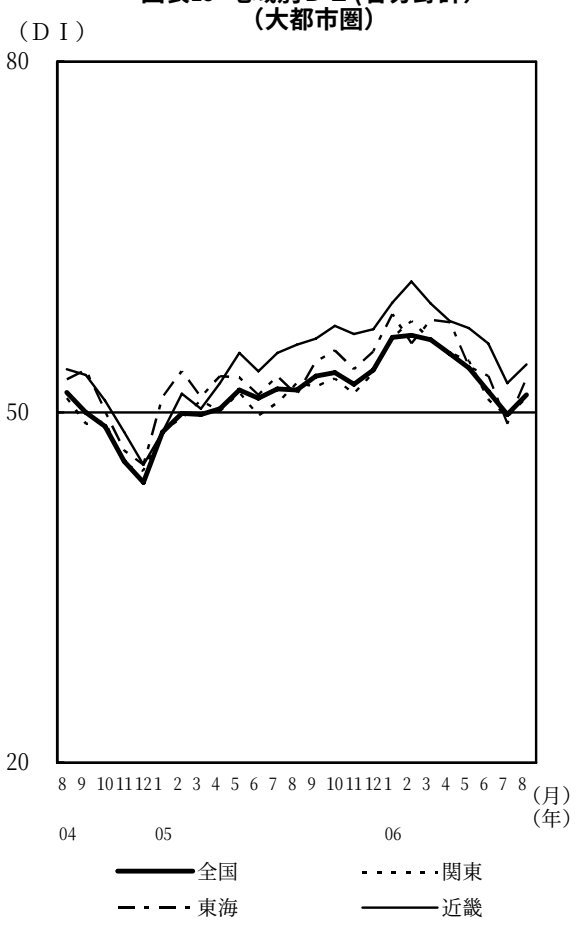
図表 13　景気の先行き判断ＤＩ（各分野計）

（ＤＩ）　年	2006						
月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国	56.2	55.0	53.8	51.8	49.8	51.5	(1.7)
北海道	57.0	54.9	54.8	52.5	50.2	49.5	(-0.7)
東北	52.8	51.7	50.3	50.5	47.1	50.2	(3.1)
関東	56.2	55.1	54.4	51.1	49.6	51.3	(1.7)
北関東	53.8	52.5	54.6	50.9	48.3	50.0	(1.7)
南関東	57.6	56.8	54.3	51.3	50.5	52.1	(1.6)
東海	57.9	57.7	53.9	53.1	49.0	52.9	(3.9)
北陸	55.6	53.0	54.3	48.5	48.2	49.5	(1.3)
近畿	59.3	57.8	57.2	55.9	52.5	54.1	(1.6)
中国	56.4	55.4	51.6	50.6	50.7	50.6	(-0.1)
四国	54.4	52.6	50.8	48.6	50.3	50.6	(0.3)
九州	55.1	53.5	53.1	51.6	50.5	52.0	(1.5)
沖縄	53.0	53.1	57.3	57.2	47.6	53.1	(5.5)

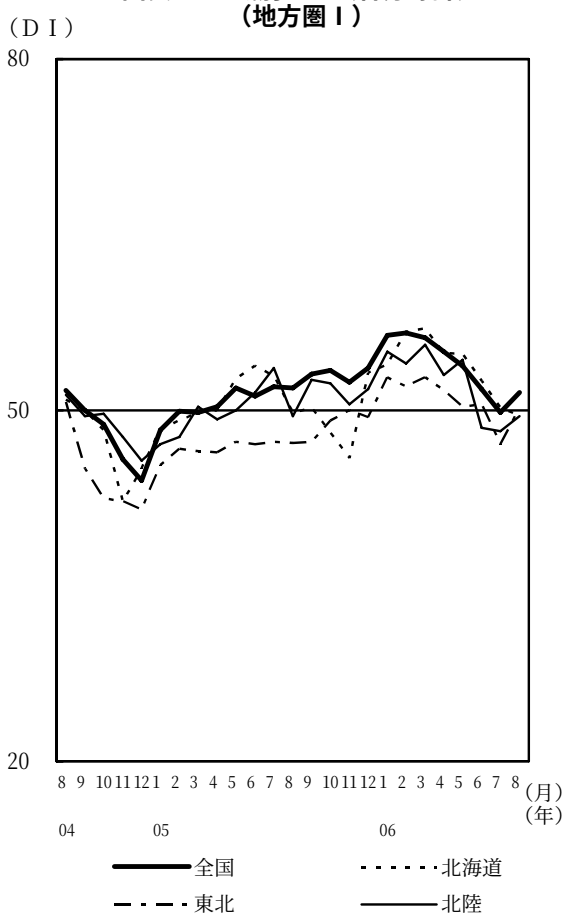
図表 14　景気の先行き判断ＤＩ（家計動向関連）

（ＤＩ）　年	2006						
月	3	4	5	6	7	8	(前月差)
全国	56.2	54.8	53.6	51.3	49.0	51.0	(2.0)
北海道	55.9	54.3	55.2	51.9	50.3	47.7	(-2.6)
東北	53.9	52.6	50.5	51.4	46.3	48.8	(2.5)
関東	56.2	55.8	54.1	49.4	47.6	50.8	(3.2)
北関東	53.5	53.5	54.5	48.9	45.6	49.5	(3.9)
南関東	57.7	57.1	53.8	49.7	48.8	51.4	(2.6)
東海	57.4	56.9	55.5	54.0	48.8	54.1	(5.3)
北陸	55.5	53.6	54.3	48.2	47.8	49.3	(1.5)
近畿	59.4	56.1	56.8	55.6	52.8	52.8	(0.0)
中国	56.6	55.1	50.9	50.0	50.0	50.6	(0.6)
四国	56.3	54.2	49.6	47.8	49.6	50.0	(0.4)
九州	52.8	51.8	51.8	50.2	50.7	51.6	(0.9)
沖縄	55.6	53.8	58.7	59.8	43.5	54.3	(10.8)

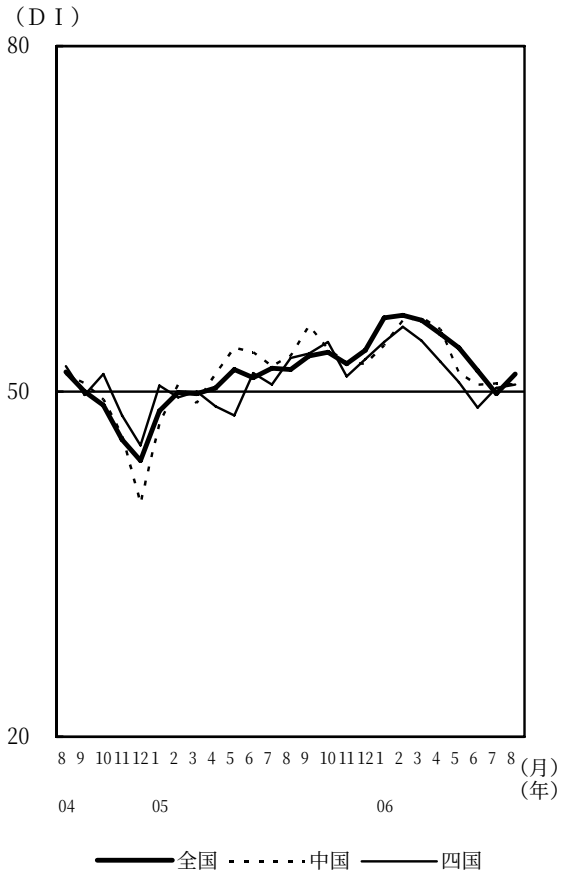
図表15 地域別ＤＩ(各分野計)
（大都市圏）



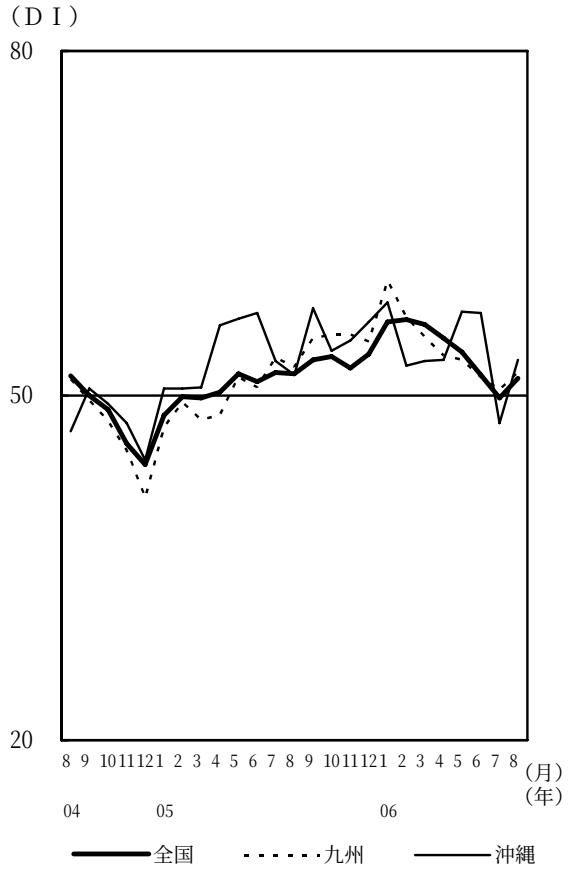
図表16 地域別ＤＩ（各分野計）
（地方圏Ⅰ）



図表17 地域別ＤＩ（各分野計）
（地方圏Ⅱ）



図表18 地域別ＤＩ（各分野計）
（地方圏Ⅲ）



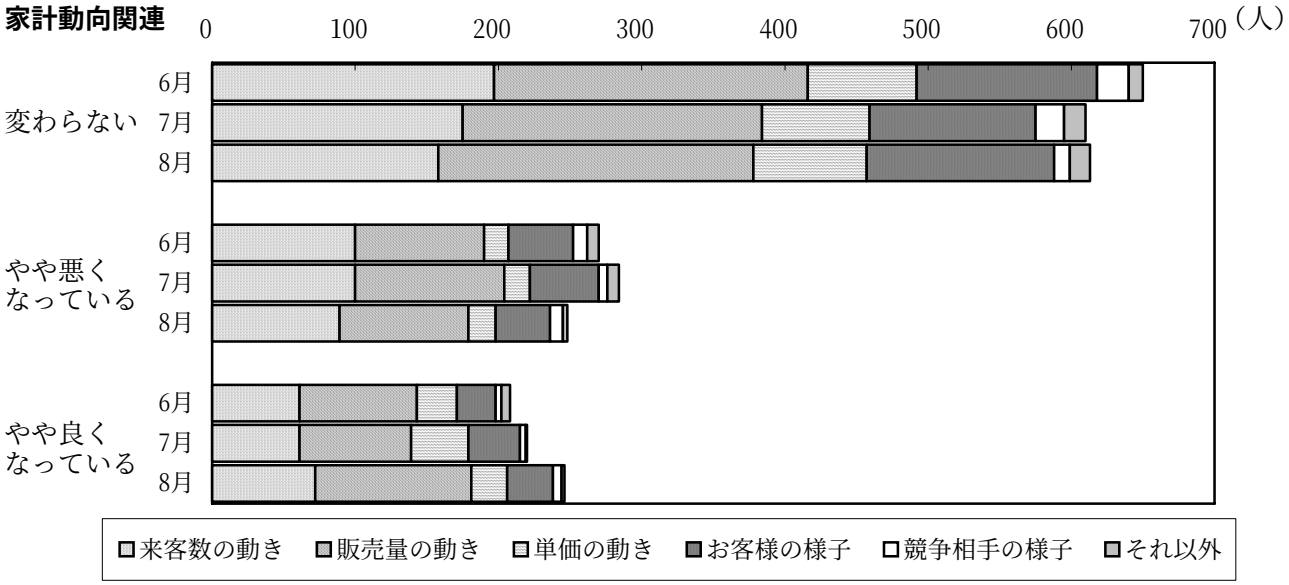
Ⅲ．景気判断理由の概要

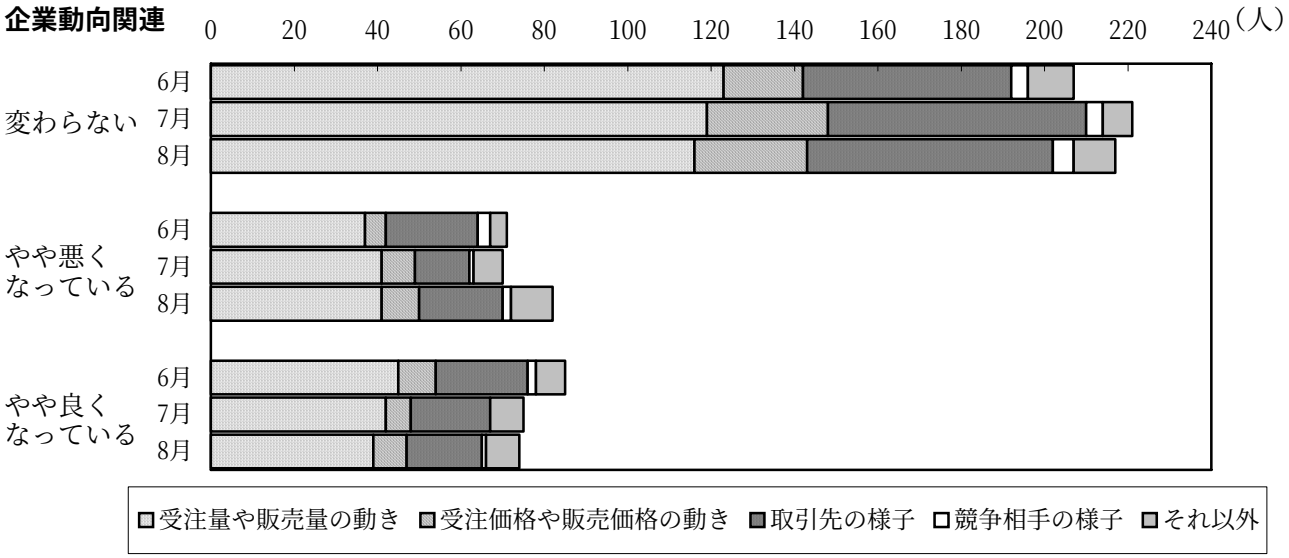
全国

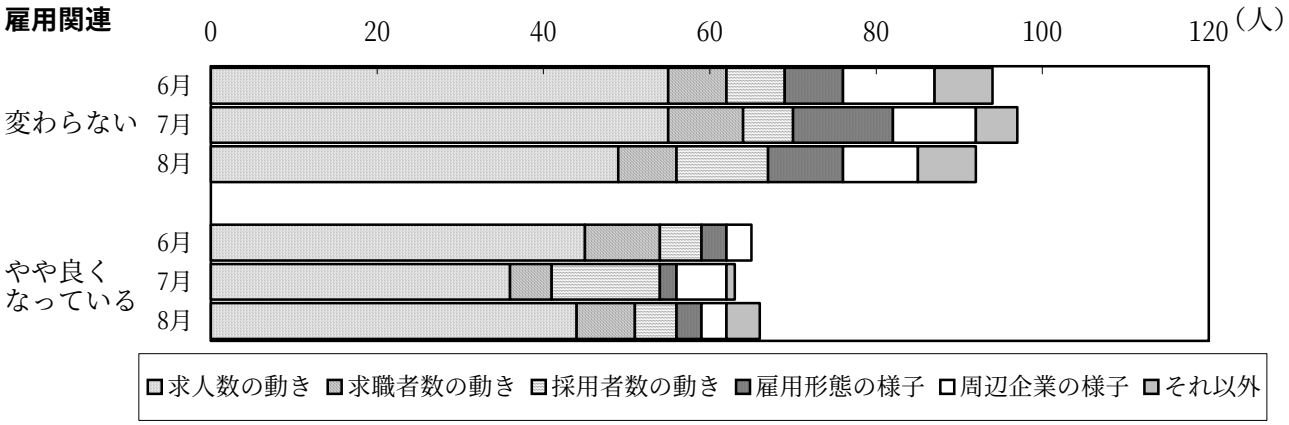
（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計動向関連	○	・気温の上昇から盛夏商品の売行きが好調で、前年同月の販売数量を 20 日間で売り切る勢いである。特に、飲料、アイスなど、気温に左右される商品が売上をけん引している（北関東＝スーパー）。 ・団体旅行の見積依頼が非常に多くなってきている。通常であれば電話の本数が減るお盆の時期も電話が鳴りやまない（南関東＝旅行代理店）。 ・薄型テレビ、地デジ対応商品、ＤＶＤ、エアコン関係が動いている（九州＝家電量販店）。
		□	・好天に恵まれ、飲料、アイスクリーム、ビール類などが大変好調だった。売上は前年比で５％増加した。主力のおにぎり、弁当、パンなどは前年を若干割る見込みで、商品によって、天候の影響が対照的に現れた（北陸＝コンビニ）。 ・気温が高い日が続き、婦人服は、Ｔシャツ・カットソーなどの低単価の商品しか動きがみられない。ガソリン代の高騰も響いているのか、中元ギフトの解体セールで史上最高の売上を記録するなど、少しでも安いものを買う傾向が見られる（中国＝百貨店）。
		▲	・８月前半は客の出足もある程度良かったものの、厳しい残暑のせいか、後半は出足が落ちて開店休業状態である（近畿＝スナック）。
	企業動向関連	○	・各アパレルメーカーは展示会発注を手控えていたが、売れ筋をつかみ、品ぞろえの関係からの受注が増えている。納期遅れが心配である（東北＝繊維工業）。 ・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続中である。原材料費や労務費の上昇は依然として続いているが、製品価格への転嫁が進むとともに、生産効率の向上から、収益面も改善している（中国＝金融業）。
		□	・原油の高騰は継続しているものの、紙パルプ、肥料、飼料、飲料等の生産工場における生産数量に今のところ大きな変化は出ていない（北海道＝輸送業）。 ・非常に多忙であるが、受注量はあまり増えておらず、横ばいである。設備投資に慎重な姿勢が出ている（東海＝その他非製造業［ソフト開発］）。
		▲	・石油の高騰と、アルミ、金属関係材料の約 20～30％の値上がりが響き、値上げをすると契約が思うように進まず、見通しは悪くなっている（南関東＝電気機械器具製造業）。
	雇用関連	○	・年度下期、年末に備えた求人が既に活発化してきた。例年よりも１か月以上早い。企業の求人意欲のおう盛さ、人材確保の積極性が感じられる（九州＝民間職業紹介機関）。
		□	・数年ぶりに求人申込をする小規模事業所が増加傾向にあるが、賃金や労働条件は良いとはいえず、求職者は敬遠している（北陸＝職業安定所）。
先行き	家計動向関連	○	・極端に良くなるとは思えないが、今年初めから続いている緩やかな上昇傾向は意外と堅調である（南関東＝商店街）。 ・10、11 月の団体旅行の相談が増えてきている。個人ではシルバー層を中心に海外旅行への関心が強く、旅行相談に来店している（四国＝旅行代理店）。
		□	・天候回復と共に来客数や売上が増加している。発泡酒など低価格のビールよりも、普通のビールの販売が好調で、低価格一辺倒とも言えなくなった。ただ基調は安い商品であり、先行きは少しでも天候不順等があれば崩れる気配を感じる（北海道＝コンビニ）。 ・手作りや国産品といったこだわりの商材への反響は依然として大きいことから、これからもそういった商材を確保することで集客力が高まる。また、下半期からの営業部門の人員強化で接客サービスの質を高めることから売上が伸びる（近畿＝百貨店）。
		▲	・漁業が盛んな当地域でも、燃料費の高騰が地域経済に影響しており、当ホテルの地元需要も伸び悩んでいる。景気回復よりも、悪くなる要素が大きい（東海＝観光型ホテル）。
	企業動向関連	○	・先行きは、ここしばらく横ばいの印象であったが、当社の業績が比較的好調であり、また周囲の他社も、予想よりも受注が堅調であるという話を聞く（北海道＝通信業）。
		□	・得意先回りをしていると、どの企業も景気回復の手ごたえを感じている。今後、値上げなどのマイナスの影響が出てくるが、しばらくは今の状態で推移する（近畿＝化学工業）。 ・広告費現状維持あるいは削減の話が多いが、制度変更等により携帯電話関係の広告費は増加の見込みであり、全体としては変わらない（四国＝広告代理店）。
		▲	・携帯関連・工作機械・エアコンを中心とした白物家電では受注減の様相、計画となり、メーカー及び材料メーカーとも弱気、様子見である。このような現象は１年以上なかった（中国＝電気機械器具製造業）。
	雇用関連	○	・バブルのころのユーザーや一度きりの利用だったユーザーや、新規で幅広い分野からの依頼が増えており、しばらくは派遣の数字は堅調に維持できる（沖縄＝人材派遣会社）。
		□	・求人の応募がないことから、非正規から正規へ切り替えた求人が製造業で数件出ているが、相変わらず非正規型求人が半数を占め、先行きは不透明である（北陸＝職業安定所）。

図表19　現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移





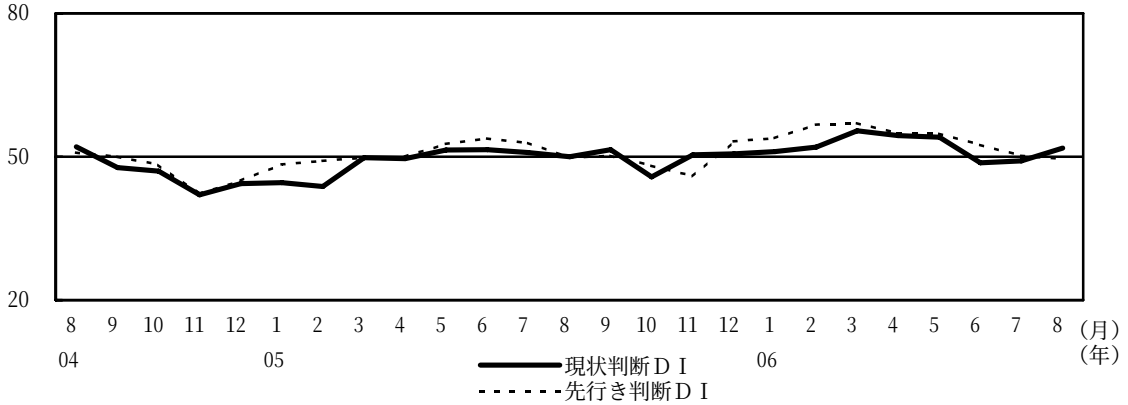


１．北海道

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・宿泊客は前年並みであり、レストラン利用の増加は期待できなかった。前月同様、観光客向けメニューの設定や全体的な単価調整により増収が図れ、今月も施策が功を奏した結果となっている（高級レストラン）。
		○	・来客数が回復していることもあり、８月の旅行者数はようやく前年比100%を超えることができた。間際の申込増が効いている。単価が高いにもかかわらず、沖縄旅行が前年比200%を超える伸びを示しており、しばらく続行する勢いがある（旅行代理店）。
		▲	・出足は順調だったが、中旬から大幅に集客が減っている。好天続きでアウトドアを行うのに好環境となったことが、小売には向かい風となった。全館的に20～30代の来客数が大きく減っている（百貨店）。
	企業動向関連	□	・原油の高騰は継続しているものの、紙パルプ、肥料、飼料、飲料等の生産工場における生産数量に今のところ大きな変化は出ていない（輸送業）。
		○	・価格はそれほど良い状態ではないが、販売量は安定して推移している（金属製品製造業）。
		▲	・官公庁の仕事の減少傾向が続いている。競争がより激しくなっており、デフレも収まっていない。原材料価格の高騰も影響している（出版・印刷・同関連産業）。
	雇用関連	□	・ここ数か月、好調さの水準に大きな変化はない。アルバイトは道内アウトソーシング、人材派遣、飲食、小売、病院・介護等の求人をはじめ全般的に好調である。正社員の求人に関しても、業種、職種ともにバラエティーに富んできている（求人情報誌製作会社）。
		○	・第二次、第三次産業の求人広告受理件数が、若干増加していることから、求人意欲が活発になっている（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴コメント		□：猛暑の影響を大きく受け、売れ筋商材が変化している。洋品、雑貨などの盛夏商材は実需を取り込んで伸長しているが、秋物の定価商材の出足が鈍り、客単価の低下を招いている。また高校野球の盛り上がりも来客数にマイナスの影響を与えている（百貨店）。 □：酪農振興策の一つとして大手乳業メーカーのチーズ工場が相次いで着工したこともあり、鉄骨製作工場では、年末まで仕事が埋まっているが、建設会社によれば単価面で厳しく、とても景気が上昇するような状況ではないとのことである（設計事務所）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・天候回復と共に来客数や売上が増加している。発泡酒など低価格のビールよりも、普通のビールの販売が好調で、低価格一辺倒とも言えなくなった。ただ基調は安い商品であり、先行きは少しでも天候不順等があれば崩れる気配を感じる（コンビニ）。
		▲	・当店は中年女性客が多いが、将来の年金問題、医療費増大、石油高騰などの問題から暖房費について心配していて、大きな買物を控えている（衣料品専門店）。
	企業動向関連	□	・建物の建築戸数が上向いているように見受けられるが一時的な傾向であり、土地取引においても一部の地域を除いて低調に推移しているため、今後も期待できない（司法書士）。
		○	・先行きは、ここしばらく横ばいの印象であったが、当社の業績が比較的好調であり、また周囲の他社も、予想よりも受注が堅調であるという話を聞く（通信業）。
	雇用関連	□	・依然としてパート、派遣、業務請負の求人が多く、求職者のほとんどが求めている常用就職の雇用環境は厳しい状況が続いている（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		□：今年は愛知万博の影響がなく、この３か月の推移をみると前々年並みに推移している。このトレンドから今後も前々年と変わらない水準でいくと見込まれる（観光型ホテル）。 □：農産物の二次加工等で人手不足感があるものの、一時的なものか継続的なものか現時点での判断はとても微妙である（求人情報誌製作会社）。

図表20　現状・先行き判断ＤＩの推移

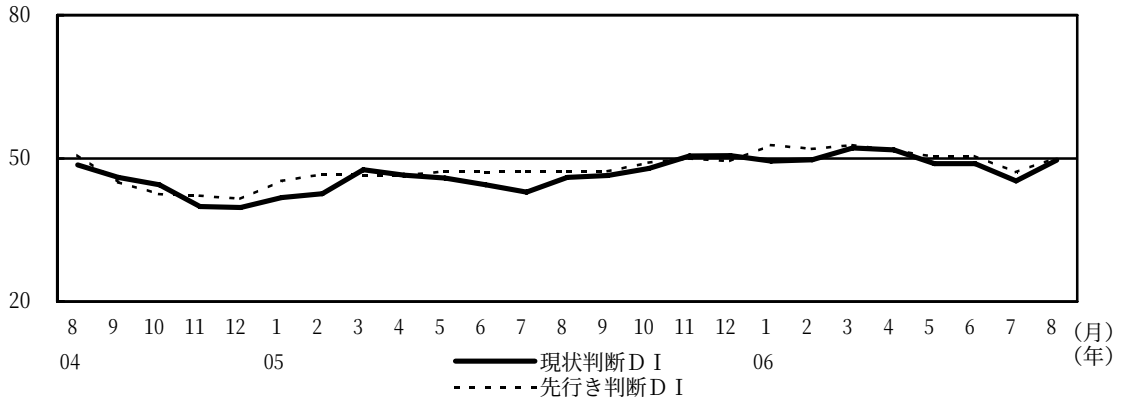


２．東北

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・梅雨明けにより、来客数、売上は少し上向いたが、季節商品のエアコン、夏物衣料などは時期を失し、商店主からは「あと１週間梅雨明けが早ければ」との声がある。なお、夏祭りの季節で安価な女性用浴衣の売行きが好調である（商店街）。
		▲	・当月は秋物の立ち上がりの時期であるが、とても暑い日が続いたため客は秋物を見ようという気持ちにならず夏物にはもう興味がない、という状態だった（衣料品専門店）。
		○	・梅雨明け以降は好天に恵まれ 30 度以上の真夏日も連続したため、夏物商品の販売が順調であった。また、やや上質なものを買っていることから、客のゆとりを感じる（スーパー）。
	企業動向関連	□	・民間設備投資は活発であるが、公共工事が少ないこと、単価が低下していることにより受注総額は減少している（建設業）。
		○	・各アパレルメーカーは展示会発注を手控えていたが、売れ筋をつかみ、品ぞろえの関係からの受注が増えている。納期遅れが心配である（繊維工業）。
		▲	・ハウス栽培を行っている大規模農家は原油高を販売額で吸収できなくなっている（経営コンサルタント）。
	雇用関連	○	・ここ２、３年求人申込のなかった事業所や、初めて求人申込をする事業所からの求人が増えており、いくらか景気が上向いていると感じられる（職業安定所）。
		□	・東京や大阪からの求人募集は相変わらず好調だが、地元からのオーダーは少なくなっている。その中では派遣会社を中心に徐々に地元からのオーダーが増えつつあり、一般の募集までつながれば上向くのだが、現状ではそこまで至っていない（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		○：牛タンの原材料の仕入価格相場が下がってきたことから、商品の内容量を増やしたところ好評であり、販売量が増加した（食料品製造業）。 ▲：二極分化の傾向が顕著になった。これまで低迷していた高級、高額商品がすんなり売れたかと思えば、中級以下の低額商品の売行きは明らかにマイナス傾向に入っている。売手側の悩み、迷いが深刻になっている（商店街）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・客から将来の景気が良くなるような話が聞かれない。当店は 22 年営業しており、景気の良い時は独特の雰囲気があるが、現在はそれが感じられない（一般レストラン）。
		○	・来街者増が極端にみえるわけではないが、飲食店などで健闘している店が徐々に出始めている。それが物販店まで好影響を及ぼすよう期待している（商店街）。
	企業動向関連	□	・得意先である住宅会社各社の受注予測は「一定レベルでの安定した状態が半年くらい続く」というものが多い（その他企業［企画業］）。
		○	・製造業における設備投資の案件が現実的になってきている。今までは東北地区は取り残された感があったが、徐々に景気回復の実感が出てきた（建設業）。
	雇用関連	□	・今後も求人数の増加傾向は続くと思われるが、増加の主要因は非正規社員求人であること、管内主要産業の動向をみても先行き不透明感や原油高の影響が若干出ていること、雇用過不足は適正となっていることから、正規社員の大幅な増加は当面見込めない（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：不動産関係、観光開発関係の案件が増加している（広告代理店）。 □：売出しのチラシが入っても以前のように行列に並んでまで買う、というような華々しさが影を潜めた。消費者の行動が冷静になってきている。この夏に旅行に出掛けた知人も多く、外で金を使い日常は控えめにするというスタイルが定着したようだ（一般小売店［茶］）。

図表21　現状・先行き判断ＤＩの推移

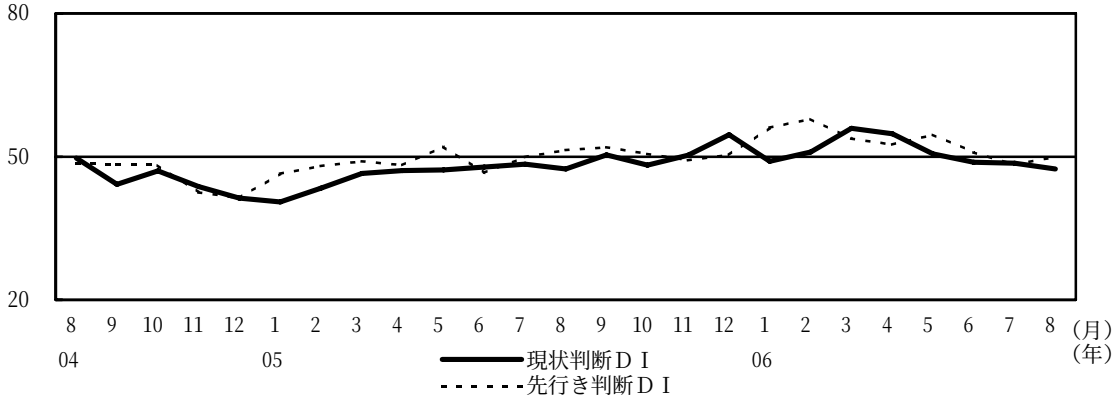


３．北関東

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・トップシーズンという事もあり、通常の月よりは当然売上、来客数とも多いが、例年並みの来客数がある割に売上が上がってきていない。ここ数年、単価と付帯利用売上が年々落ちてきているが、今月は特にその影響を重く感じた月となっている（観光型ホテル）。
		▲	・全般に購買意欲がないのか、慎重なのか、修理不能以外の家電製品購入がみられない。家計の中で出費構成が変化しているようである（一般小売店［家電］）。
		○	・気温の上昇から盛夏商品の売行きが好調で、前年同月の販売数量を 20 日間で売り切る勢いである。特に、飲料、アイスなど、気温に左右される商品が売上をけん引している（スーパー）。
	企業動向関連	□	・夏の販売商戦の広告費は期待したほど伸びず、昨年とほぼ変わらなかった（広告代理店）。
		▲	・石油製品の価格高騰分を商品に上乗せできれば良いが、いまだにできず、本当にいよいよというところまできている。解決策を見付けなければ、本当に難しい（食料品製造業）。
		○	・引き合い、受注量、システムの納入高、共に増加傾向にある。ただし、短納期、単価の据置きと、厳しい状況に変わりはない。競争も激しく、収益の改善には時間が掛かる（その他サービス［情報サービス］）。
	雇用関連	□	・求人募集企業は依然として増加傾向にあり、正社員募集も増えてきている。サービス産業の出店も多く、総体的に募集件数は増加している（求人情報誌製作会社）。
		○	・求人数の動きが活発である。派遣スタッフの求人要請が非常に多い（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		◎：地物の特産品をメニューに加えた効果が出てきたのか、特にこの春から夏にかけて、県外からの客が確実に増加している（一般レストラン）。 ▲：天候不順のため、夏季商品、レジャー用品などの輸送依頼が前年割れをし、また、燃料高による負担もあおりを受けている状況である（輸送業）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・これといったヒット商品が不在なので、売れ筋主力商品が不明である。ガソリン価格高騰が家計に及ぼす影響等もあり、消費が活発化するとは思えない（百貨店）。
		○ ▲	・今まで景気が悪くて意識的に抑えていた分があったがここにきて少しは緩んでおり、余裕・慣れが出てきて、少しずつ欲しい物、必要な物＋αの購買意欲が出てくる（コンビニ）。 ・９、10 月のボージョレーヌーボーディナーショーなどの秋のイベント予約は大幅前年割れ、秋の婚礼の予約は、組数、客数、単価全て、前年を 20%程度下回る（一般レストラン）。
	企業動向関連	□	・機種変更など多種少量生産で変動が激しいが大きな変化はない（電気機械器具製造業）。
		▲	・９月初めの業者対象の大きな宝飾展示会で一時的に商品が動くが、在庫がはけておらず見通しは暗い。金やプラチナ、ダイヤモンドの値上がりから、同モデルの場合、昨年より価格が 30～50%上昇して、ディーラーが慎重な面もある（その他製造業［宝石・貴金属］）。
	雇用関連	○	・職種によって違いはあるものの、辞退者に対する２次、３次募集が出たり、中小企業を中心に来年度の採用計画が整う企業も出始める。昨年も秋口から求人が増えたので、今年も昨年以上の動きが出る（学校［短期大学］）。
	その他の特徴コメント		○：上期の決算期が近づくとともに来場者数が増加してきていることや、モデルチェンジの車の発売もあるため、やや良くなる（乗用車販売店）。 ✕：３か月先の見通しを直近の数字と比べると 10～15%落ちている。例えば３か月前の９月見通しよりも直近の見通しでは 10%強落ちている。９、10 月辺りに減産基調に入ったというメーカーもあるので、後半は非常に厳しい（輸送用機械器具製造業）。

（ＤＩ）　　**図表22　現状・先行き判断ＤＩの推移**



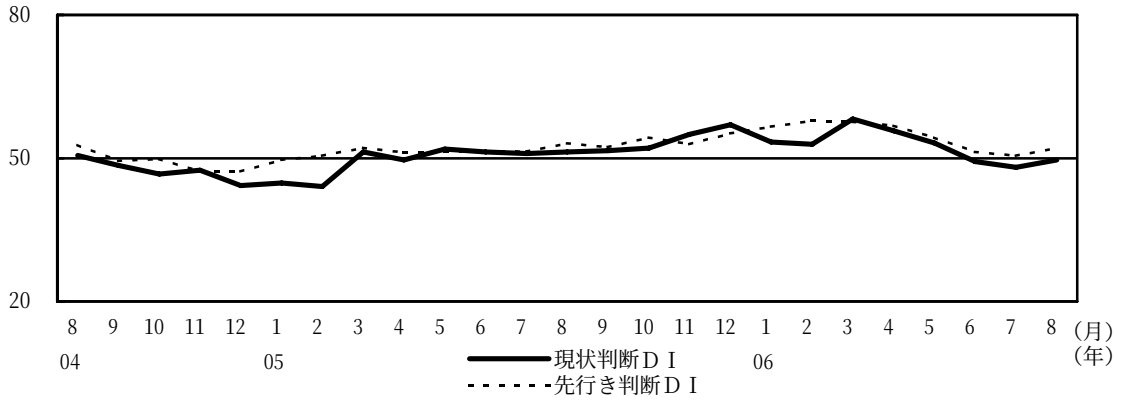
４．南関東

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・生鮮品や総菜等の日常的な食品や、紳士、婦人ファッションは比較的堅調に推移しているが、宝飾、高級ブランド品が苦戦している。ユーロ高による価格改定が若干影響している（百貨店）。
		▲	・以前は 23 時を過ぎると乗り場にかなりの人が並んだが、最近では 24 時を過ぎないとあまり並ぶことがない（タクシー運転手）。
		○	・団体旅行の見積依頼が非常に多くなってきている。通常であれば電話の本数が減るお盆の時期も電話が鳴りやまない（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・取引先工場の稼働率が上昇し、受注量も若干増えているものの、価格競争が激化しており全体の売上に変化はない（その他サービス業［廃棄物処理］）。
		▲	・石油の高騰と、アルミ、金属関係材料の約 20～30%の値上がりが響き、値上げをすると契約が思うように進まず、見通しは悪くなっている（電気機械器具製造業）。
		○	・顧問先の製造業や建設業では、一時期ひん死状態であったところが盛り返してきている。腕の良い特殊な技術を持った建設屋は、仕事がこなしきれないほどである（税理士）。
	雇用関連	○	・来期新卒採用の企画が進行中だが、昨年との明らかな違いは女子学生の積極的な採用である。女性社員の活用も含め、提案を求められることが多くなっている。そのための別予算化が進んでいるようである（求人情報誌製作会社）。
		□	・パート、アルバイト採用で苦戦している企業が増えてきている。思うように採用ができないため、派遣の依頼へつながるケースが多い（人材派遣会社）。
	その他の特徴コメント		◎：当社は新聞の求人広告を取り扱っているが、例年暇であるはずの８月に、今年は問い合わせが殺到して満枠御礼を連発し、お盆も返上の忙しさである。同業他社も、お盆休みはなかったようである（求人情報誌製作会社）。 ▲：宝飾品、高級時計、美術品などの動きが３か月前に比べて鈍化してきている。また、目立った流行の変化がなく、まとめ買いが少ない状況が続いている。特に、季節の入口で大量に購入するファッションリーダーの動きが鈍く、売れ筋の把握が難しい（百貨店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・相変わらず気温に左右されるが、秋物の早期導入により、感度の良い商品は売行きが早い。特に中高年世代の消費は強い（一般小売店［衣料・雑貨］）。
		○	・極端に良くなるとは思えないが、今年初めから続いている緩やかな上昇傾向は意外と堅調である（商店街）。
	企業動向関連	□	・今後もオフィス需要はおう盛であると思われるものの、金利の上昇に対する懸念もあるためか、分譲マンションの契約の伸びにはやや陰りが見られる（不動産業）。
		▲	・大手会社は部品加工の発注工数を省くために、組み立てごと丸投げして発注している。そのため、今までの部品加工下請けに発注する件数は減少している（金属製品製造業）。
	雇用関連	□	・原油高の影響等により、製造業以外の運送業やガソリンスタンドなどでもコスト削減を目的としてアウトソーシング化が進んでいる。そのため派遣、請負での求人の増加は続くものの、正社員を求める求職者とのミスマッチは広がっていく（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		◎：ＩＴ系企業の採用意欲は特にすさまじく、８月にもかかわらず次年度卒業予定の学生を是非という企業が非常に多い（学校［専門学校］）。 ▲：当社を含め同業店舗においても、アルバイト、パートの募集がままならず、従業員不足が際立ち始めている。結果的に、時給がじわじわと上昇し経営を圧迫する。また、納得のいく接客ができず、来客数や売上が減少する（コンビニ）。

（ＤＩ）

図表23　現状・先行き判断ＤＩの推移

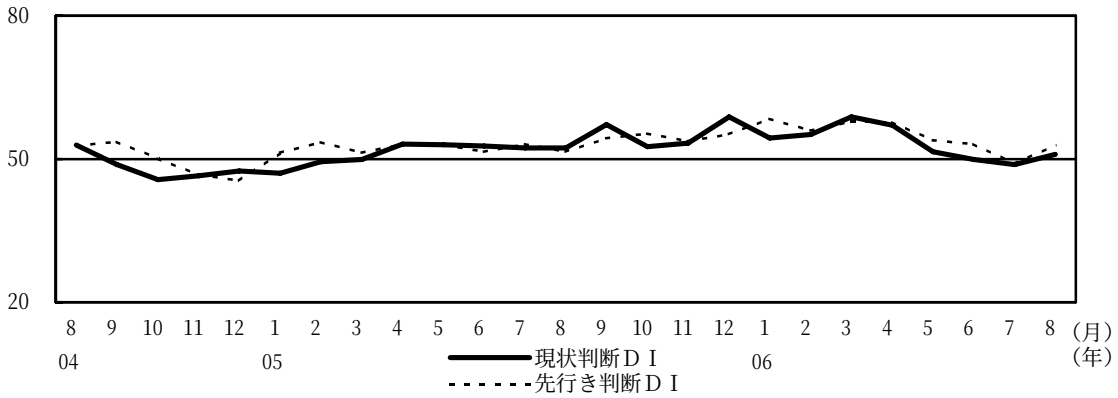


５．東海

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・客の様子を見ると、野菜や果物などの商品の値上がりがあれば、他の値打ちな野菜、果物から選び、うまく購入している。原油価格の高騰や原材料費の値上がりでデフレは止まり、店の売上も久しぶりに下げ止まっているが、実質的には変わっていない（スーパー）。
		○	・お盆は里帰りの家族連れ客が多く、それなりに売上につながっている。現在は改装時期で通常なら売上は減るが、平日でも午後や会社帰りの夕方に来店する客が増えてきており、売上を維持している（百貨店）。
		▲	・和菓子屋にとってお盆の時期は夏場の唯一の繁忙期であるが、前年と比べて繁忙期間は短期化しており、客当たりの購入量も少なくなっている。そのため製造販売量は、例年よりかなり減っている（商店街）。
	企業動向関連	□	・非常に多忙であるが、受注量はあまり増えておらず、横ばいである。設備投資に慎重な姿勢が出ている（その他非製造業［ソフト開発］）。
		○ ▲	・金利が上昇局面にあることも影響してか、法人、個人とも不動産購入意欲は強く、引き続き不動産は動いている（金融業）。 ・複数の仕入先が、原材料価格を値上げしている。その一方で仕入先からは、荷動きが悪いので商売にならないという話も聞く（金属製品製造業）。
		×	・原材料費の高騰分を、販売価格に転嫁することができない状況が続いてる（金属製品製造業）。
	雇用関連	□	・製造業では正社員募集が盛んである。新卒採用が順調でないため、即戦力になる中途採用が増えている。一方、流通や小売関係では正社員募集は少なく、パートなど軽雇用が中心である（新聞社［求人広告］）。
		○	・管内企業数社に対して実施している雇用に関するヒアリング調査によると、人手不足は一段と進んでいる（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		◎：金融機関、特に銀行では、かつてリストラした正社員の補充を始めている（人材派遣会社）。 □：昨年の愛知万博の反動による落ち込みは、徐々に収束してきている（コンビニ）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・景気のバロメーターと言われる紳士服関連は好調であるが、全体的にはまだまだである。来客数もそれなりにあるが、販売には結び付いていない。今後も財布のひもが固い状況が続く（百貨店）。
		○	・名古屋駅周辺の新築オフィスビル群の開業前需要がある（都市型ホテル）。
	企業動向関連	□	・アメリカ経済の動向や中東情勢、原油価格、テロのリスク等に影響されやすい。大きな変化はないが、しばらく景気の改善は期待できない（化学工業）。
		▲	・建設事業に受注情報はあるが、一時の勢いはなくなっている。受注先との値上げ交渉も長引いている。今後も厳しい状況が続く（一般機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・求人広告の量は、季節変動を除くと、ほぼ横ばいが続く（新聞社［求人広告］）。
	その他の特徴コメント		◎：地元プロ野球球団の優勝がほぼ確実視されるため、今後販促企画が各業種で積極的に行われ、消費は活発化する（スーパー）。 ▲：漁業が盛んな当地域でも、燃料費の高騰が地域経済に影響しており、当ホテルの地元需要も伸び悩んでいる。景気回復よりも、悪くなる要素が大きい（観光型ホテル）。

図表24　現状・先行き判断ＤＩの推移

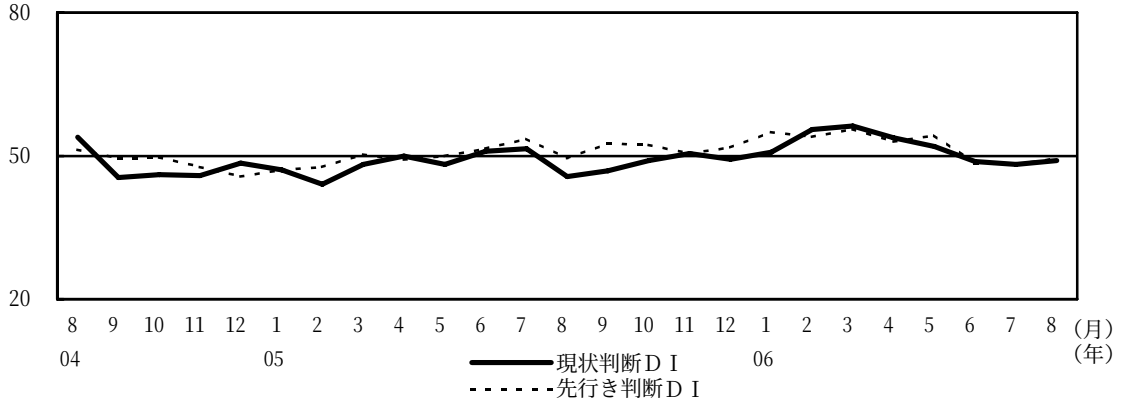


６．北陸

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・好天に恵まれ、飲料、アイスクリーム、ビール類などが大変好調だった。売上は前年比で５％増加した。主力のおにぎり、弁当、パンなどは前年を若干割る見込みで、商品によって、天候の影響が対照的に現れた（コンビニ）。
		▲	・クラス会や団体の予約もなく、売上は前年の８割に終わった。店前の通りもひっそりした日が目立った。例年見られる取引先の創業記念日の予約申込もなく、全体的に節約ムードが感じられる（スナック）。
		○	・夏のバーゲン全体を総括すると、客の商品選択に迷いがなくなったため、接客時間の短縮化傾向が見られ、従来の３分の２程度になっている。また本物志向は相変わらず顕著で、決して安くないハンドメードのハンドバッグが前年の 2.5 倍も売れている（百貨店）。
	企業動向関連	○	・取引先、競争相手のなかでも、特に同業他社の設備投資意欲は強く、更に上乗せ計画が進められている（一般機械器具製造業）。
		▲	・産地では、プラスチック枠関係のメーカーは年明けごろまでの受注は既に埋まっているようだが、メタル枠関係のメーカーは今までの材料費の高騰に加え、ここへ来て再び中国製商品の国内流入量が増えていることから仕事量が減少している（精密機械器具製造業）。
		□	・原材料価格の高騰に伴う製品価格の一部値上げについて、取引先に打診しているが、なかなかうまくいっていない（プラスチック製品製造業）。
	雇用関連	□	・数年ぶりに求人申込をする小規模事業所が増加傾向にあるが、賃金や労働条件は良いとはいえず、求職者は敬遠している（職業安定所）。
		○ ▲	・求人広告の売上は前年同月比 103%の増加である。地元での求人は若干減っているが、東京や名古屋からの求人が増加している（新聞社［求人広告］）。 ・社員、アルバイトを含め、求人件数は前年比約 15%減である（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴コメント		○：ガソリンの値上げとともに、金利の引上げがいよいよ行われているが、この悪影響を心配する声はそれほど強くない。企業動向はまだ底固いものがある（金融業）。 □：例年８月の売上が最も多いステーキ専門店は、過去 10 年で最高の売上を記録した。高価な銘柄牛やワインの売行きも好調である。一方、料亭部門は例年最も苦戦を強いられる夏であるが、今年は法事の個人客が２倍近くあり、売上を底上げした（高級レストラン）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・８～９月にかけての残暑が秋物商品の販売に陰りを与え、秋の季節感のなさが消費の低迷に影響する（スーパー）。
		○	・好調な鉄鋼・非鉄・金属・機械などの製造業を中心に、福利厚生の一環として職場旅行や従業員向けの個人旅行などの問い合わせが増加している（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・厳しい残暑のため、秋物の立ち上がりが気になる。また、原油高に伴う原料、燃料の値上がりをいかに価格に転嫁できるかが課題である（繊維工業）。
		○	・自動車関連は先行きに慎重だが、パソコン、携帯電話などの弱電関係は秋口から新製品の立ち上がりや、既存品の増産が期待できる環境となってきた（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・求人の応募がないことから、非正規から正規へ切り替えた求人が製造業で数件出ているが、相変わらず非正規型求人が半数を占め、先行きは不透明である（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：秋物商品が徐々に売場に並びつつあるが、売上金額としては小さいものの、前年の 1.5 倍となっている。また、従来は秋冬物で敬遠された白色が雑貨や婦人服に見られ、消費の活発化を予感させる（百貨店）。 ○：９月からの酒類販売の完全自由化により、新たに酒の取扱を始める店はおつまみなども含め売上が増加する。コンビニ業界としては明るい材料である（コンビニ）。

（ＤＩ）　**図表25　現状・先行き判断ＤＩの推移**

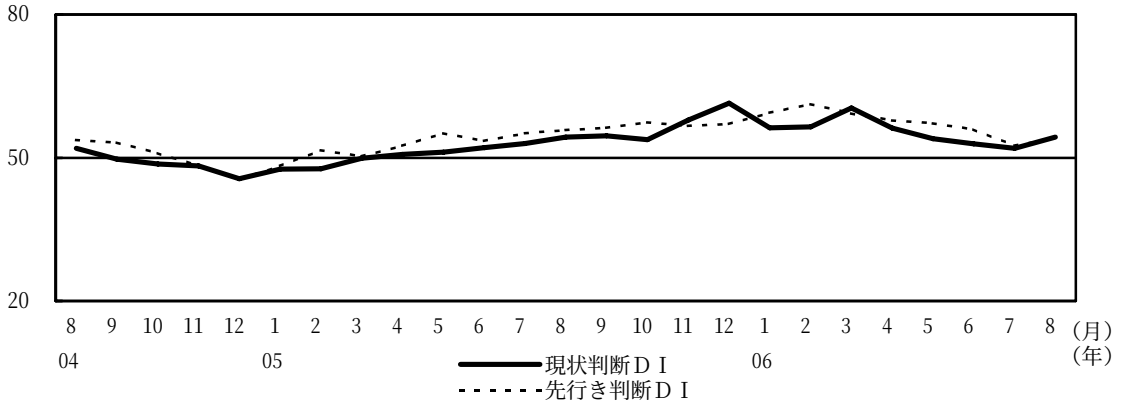


７．近畿

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・秋冬物の早期受注の開始が年々早まり、高額ブランドの衣料品が８月半ばから売れ始めている。その一方で、猛暑により夏物商材の需要が増えたものの、売上を大幅に押し上げるほどでもなかった（百貨店）。
		○	・全体的な販売量が非常に増加しており、既存店でみても前年比で好調な推移をみせている。節約志向であった客が、し好品も含めて購買意欲がおう盛になっている（スーパー）。
		▲	・８月前半は客の出足もある程度良かったものの、厳しい残暑のせいか、後半は出足が落ちて開店休業状態である（スナック）。
	企業動向関連	□	・悪いといった感はないものの、新規案件が減り、取引先の勢いも無くなってきている（金属製品製造業）。
		▲	・当社の売上も芳しくないが、原材料メーカーなどの売上状況も良くない。気候などの影響もあるものの、低迷の原因がはっきりしない状況である。ただし、取引先では漠然と景気が悪くなっているといった声が目立つ（食料品製造業）。
		○	・製品のライフサイクルが短く、開発に多忙な状態であるが、取組方法次第では好機をつかめるようになってきた（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・事務職のパート求人が増えているものの、応募者がなかなか集まらなくなってきた（新聞社[求人広告]）。
		○	・前年よりも内定状況は少し改善しているものの、夏期休暇中で学生の動きは鈍い。一方、現在も採用予定数を充足できていない企業も多く、大学を訪問して内定状況や今後の動きに関する情報を集めるなど、採用活動を続けている（学校[大学]）。
	その他の特徴コメント		○：最近は小売業や建設業の取引先から、シルバー層をターゲットとするビジネスの相談が増えてきている。本業の不況対策が一段落し、いよいよ本業以外でのビジネスも行う余裕が出てきた（経営コンサルタント）。 ○：全国高校総体の開催に伴って宿泊が増加しているほか、食事利用の増加などで宴会場やレストランが好調である（都市型ホテル）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・手作りや国産品といったこだわりの商材への反響は依然として大きいことから、これからもそういった商材を確保することで集客力が高まる。また、下半期からの営業部門の人員強化で接客サービスの質を高めることから売上が伸びる（百貨店）。
		○	・客からは、安いスーツは買いたくないという感覚が伝わってくる（衣料品専門店）。
	企業動向関連	□	・得意先回りをしていると、どの企業も景気回復の手ごたえを感じている。今後、値上げなどのマイナスの影響が出てくるが、しばらくは今の状態で推移する（化学工業）。
		○	・12月１日に地上デジタル放送の視聴エリアが全国に広がるため、それに伴うサービスへの訴求が一層活発になり、地上デジタル放送対応のテレビへの買換え需要が増える（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	○	・新規求人数はここ数か月の堅調な伸びから一転して、前年比で１％減少したものの、出店意欲の強い大手流通業者などは高水準で推移している。また、９月末から開催される国体による特需で、ホテルなどの飲食、宿泊業が管内景気を下支えする（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：予約状況をみると、秋以降も熟年世代を中心に旅行需要は堅調である（旅行代理店）。 ▲：ユーロ高の影響で特に輸入ブランド品の価格が上がり、客の心理状態にも影響が出る。また、原油高などによるコスト上昇が消費財の価格にも影響するなど、好転する要素があまりみられない（百貨店）。

（ＤＩ）　**図表26　現状・先行き判断ＤＩの推移**

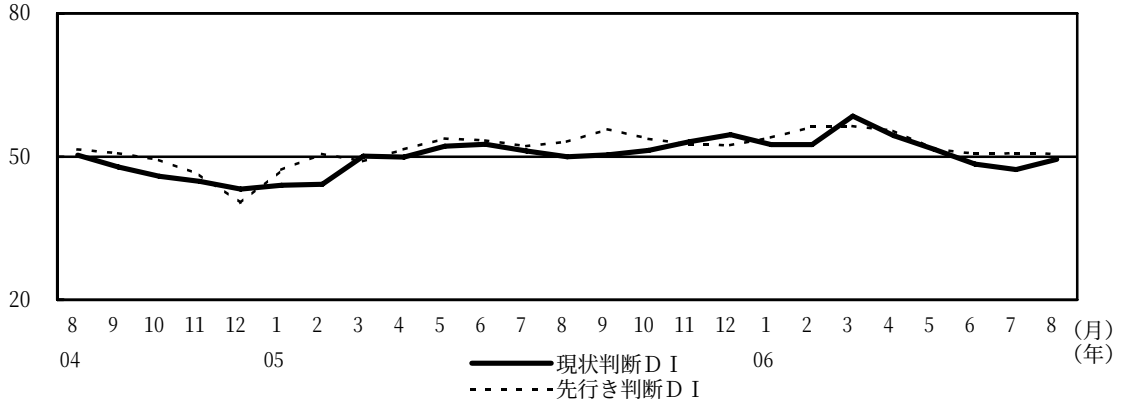


８．中国

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・気温が高い日が続き、婦人服は、Ｔシャツ・カットソーなどの低単価の商品しか動きがみられない。ガソリン代の高騰も響いているのか、中元ギフトの解体セールで史上最高の売上を記録するなど、少しでも安いものを買う傾向が見られる（百貨店）。
		▲	・商談が、小さい車へ小さい車へと動き、特に軽自動車への移行が顕著である。少しでも安く、またいろいろな小型車を見て回る、買い回り客が増加している（乗用車販売店）。
		○	・３か月前に比べると、売上は前年比２％、来客数も同３％改善し、前年比をクリアした。８月に入り梅雨も明け、一気に売上を突上げた。台風で一時期下がったもののその後は大きな影響もなく、客の財布のひもが多少緩くなってきた感がある（コンビニ）。
	企業動向関連	□	・原材料の値上要請は一段落の状態である。したがって売値の改定要請も落ち着いている（化学工業）。
		▲	・国内向けの自社製品の売上が市場環境の悪化で減少してきている（一般機械器具製造業）。
		○	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続中である。原材料費や労務費の上昇は依然として続いているが、製品価格への転嫁が進むとともに、生産効率の向上から、収益面も改善している（金融業）。
	雇用関連	□	・新規ビジネス、サービスを開始するための、責任者を募集するケースが増えてきた。これまでの守りの姿勢から、攻めへと転じる企業が目立つ（民間職業紹介機関）。
		○	・新規求人数及び月間有効求人数とも前年を大幅に上回っている。また、人員整理の数も減少傾向である（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：夏休みに入り、家族での宿泊が例年より多く、客室では定員以上での利用も多かった。また広島ではスポーツのイベントが多くあり、集客に貢献した（都市型ホテル）。 □：夏休み期間ということもあり、子供連れの家族が多くてにぎわった。反面、暑すぎたせいか中高年層が落ち込んでおり、全体としては昨年並みであった（テーマパーク）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・野菜の価格も少しずつ低下し、落ち着いてきつつある。しかし、交通機関整備の貧弱な地方では車は生活の一部であり、燃料代の値上げの影響は非常に大きい（スーパー）。
		▲	・我々旅行業は、大きな契約は３か月前には受注されるが、今年はまだ受注に結び付いていない。特に 10～12 月が非常に悪く、受注が発生するのか不透明である（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・仕事量は十分であるが、原材料の値上がりが気掛かりである。この状況が年内は続く（金属製品製造業）。
		▲	・携帯関連・工作機械・エアコンを中心とした白物家電では受注減の様相、計画となり、メーカー及び材料メーカーとも弱気、様子見である。このような現象は１年以上なかった（電気機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・新規求人数が前年より上回っているものの、正社員の占める割合は 40%であり、パート及び有期求人や派遣・請負求人が大半を占めている。事業所としては、まだ先行き不安な面がぬぐいきれない（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：10 月から地上デジタル放送の開始が大きなインパクトになることは間違いなく、対応製品の普及率からみても購買の爆発点が近いことが予想される。８月の好調は夏商戦の時期が遅れたためであるが、秋から冬にかけて大きな底上げが期待できる（家電量販店）。 ▲：郊外の大型ショッピングセンターへの客の流れはこのまま続く。広島市民球場も移転が決定し、市内中心街への人の流れはますます減少する（その他専門店［スポーツ］）。

図表27　現状・先行き判断ＤＩの推移

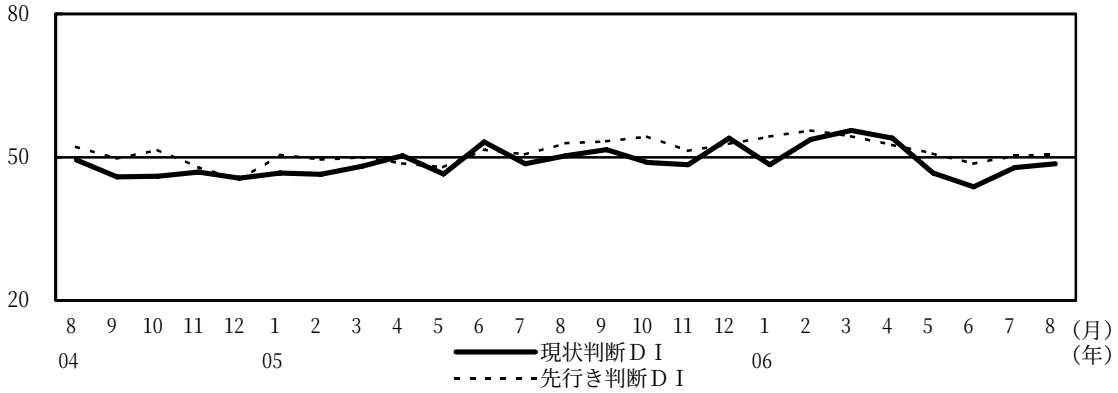


９．四国

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・レンジ、炊飯ジャーなどの白物家電が良く売れている。その他、クリーナー、扇風機等小型商品の販売量も増加しており、店内も多少活気が出ている（家電量販店）。
		○	・８月はバーゲン期間中であり、天候に恵まれたため、紳士物のＴシャツやポロシャツなどの軽衣料品の売上が好調であった。婦人物のパンツは低調であったが、紳士物の売上で十分カバーできた（衣料品専門店）。
		▲	・夏祭りの観光客と帰省者が増加する８月は最盛期であるが、長梅雨と冷夏の影響で例年に比べてプレミアムビール以外は販売量、販売単価共に低調である（一般小売店［酒］）。
	企業動向関連	□	・盆明けの貨物量が低調であり、我慢できず、一部で運賃低下の動きも見られる（輸送業）。
		▲	・受注量は少なく、受注の案件があっても、遠くの企業と競合し、受注が大変困難な状況になっている。受注したとしても、単価が安い（電気機械器具製造業）。
		○	・良いものに対する受注が増加している（繊維工業）。
	雇用関連	□	・客からのオーダーの数と求職者数のバランスが悪い。案件数は順調に推移しているが、登録者数は前年の約半分になっている（人材派遣会社）。
		○	・雇用する企業が景気回復傾向にあるため、採用者数を増やしている（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴コメント		○：例年より、夏休みの家族旅行が件数･金額ともに増加している。海外ではアジアなどの近場でなく、ヨーロッパ、オーストラリア、ハワイなど比較的遠隔地の高額商品の売上が良くなっている。国内では近場の温泉、各地の盆踊り、東京･大阪のテーマパークなどに人気が集まった。８、９月に航空会社と提携してソウル旅行のキャンペーンを行っているが、予想以上の関心を集めており集客は順調である（旅行代理店）。 □：どの商店主に聞いても物が動かないと言われる。また、高知では、新規建築時や開店時に、新聞へ落成広告を掲載する習慣があるが、事業主の意欲が下がっており、しばらく低迷している（新聞社［求人広告］）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・催事関連は好調に推移した。ファッション関連のマークダウン商品については好調だったが、後半は例年に比べ来客数、売上ともに低調であった。ブランド商品群は、ブランドにより好不調がはっきりしている（百貨店）。
		○	・10、11 月の団体旅行の相談が増えてきている。個人ではシルバー層を中心に海外旅行への関心が強く、旅行相談に来店している（旅行代理店）。
	企業動向関連	□	・広告費現状維持あるいは削減の話が多いが、制度変更等により携帯電話関係の広告費は増加の見込みであり、全体としては変わらない（広告代理店）。
		○	・システム提案に伴い、イニシャルコストを説明する際、金額に関する質問より品質、スペック等に関する質問が多くなってきた（通信業）。
	雇用関連	□	・求職者の活動の鈍さの問題もあるが、新卒採用担当者からも積極的な採用意欲がうかがえない（学校［大学］）。
	その他の特徴コメント		○：今秋、中心商店街に大型商業施設のオープンが予定されており、商店街への客の回帰に期待している（衣料品専門店）。 □：九州南部と山陰地区の豪雨災害に伴う復旧工事の関係で、仕事量も当面確保されており、稼働率は今後とも高水準を維持する（一般機械器具製造業）。

（ＤＩ）　**図表28　現状・先行き判断ＤＩの推移**

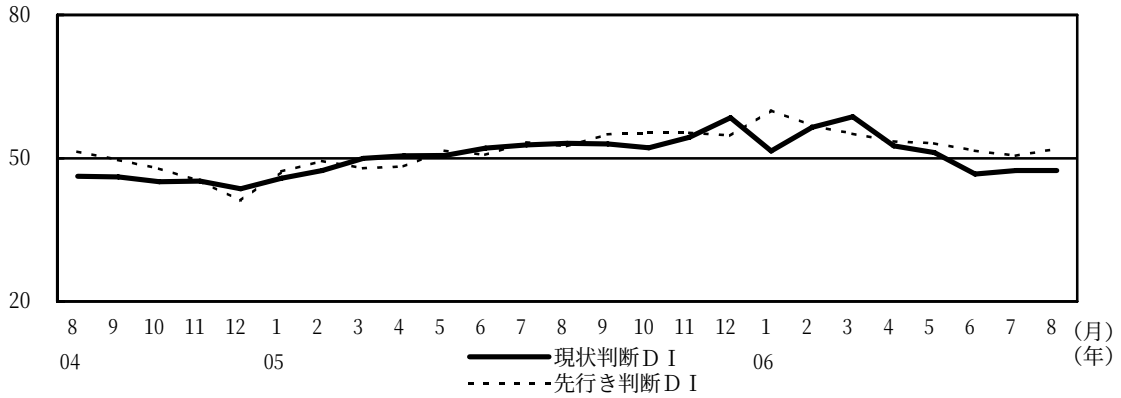


10．九州

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・一部の客は秋物の正価販売品を購入し、先取りしているが、一般の客は依然セール品の中から好きなものがあれば購入するという傾向が続いている。全体的に単価が下がっており、今後も景気が良くなるとは考えれらない（衣料品専門店）。
		▲	・猛暑や水害等、天候に左右され客足が鈍り、来客数が激減した（その他飲食［居酒屋］）。
		○	・薄型テレビ、地デジ対応商品、ＤＶＤ、エアコン関係が動いている（家電量販店）。
	企業動向関連	□	・猛暑の影響もあり、居酒屋中心にビール等の売上が伸びている。ただ加工メーカー向けの原料商品は、加工食品の不振もあり厳しい状況である（農林水産業）。
		○	・電子部品、半導体、コネクター等の精密金型関係は、非常に忙しい状況でフル操業である。同業他社も同じような状況である（電気機械器具製造業）。
		▲	・取引先の様子を見ると、例年に比べて引き合い量が少なくなっている（一般機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・雇用形態は依然として非正規職員比率が高まりつつある。雇用件数は８月に入って横ばいで推移している（学校［専門学校］）。
		○	・年度下期、年末に備えた求人が既に活発化してきた。例年よりも１か月以上早い。企業の求人意欲のおう盛さ、人材確保の積極性が感じられる（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴コメント		○：台風の影響があったものの、その前後は晴天が続き、気温も非常に高く推移したため、アイス・清涼飲料・乾麺・つゆ・ビール等の涼味商材の動きが良かった。８月からスタートした夕方の販売強化により客単価も上昇し、売上は回復傾向にある（スーパー）。 ▲：ようやく売上減少に歯止めがかかり、前年並みの売上は確保できた。長崎では「長崎さるく博'06」がこの春から開催されており、市街地の旅館はやや良くなっていると聞くが、郊外ではほとんどその効果は見受けられない（高級レストラン）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・富裕層の購買は引き続き底堅いが、一般消費者の買上に勢いが感じられなくなっている（百貨店）。
		○	・客は新製品や健康関連商品に敏感に反応する。今秋は新製品が多く出品されるため、良くなる（スーパー）。
	企業動向関連	□	・金利上昇に伴い、個人の住宅ローンの駆け込み需要があり、企業では、金利上昇前の資金確保の動きが見られる。しかしながら景気が上向いた感の資金需要ではない（金融業）。
		○	・受注は順調に推移しており、今後もマンション新築、自動車関連の新工場、ＩＴ関連工場の増設、九州新幹線北部ルートなどの建築物件が控えており、これらに必要な資機材の需要は堅調に推移する（鉄鋼業）。
		▲	・全種類の商品の荷動きが悪く、しばらくこの状態が続く（輸送業）。
	雇用関連	□	・心配された原油価格高騰による解雇者等が出ていない。学卒求人も昨年以上の申込が予想される（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		○：折込枚数が再び上昇し、受注も活発になった。地区的には八幡西区の折込枚数が著しく伸びている。１つには東田地区の商業施設が一部完成したことにもよるが、その他の地区も順調に伸びてることを考えると、今後も消費活動には期待が持てる（広告代理店）。 ▲：秋口にかけて、例年よりファッション関係の動きが鈍い。一方で美術や時計等の高額品が一部で売れているが、全体を引っ張るほどではない。ファッション関係が上向きにならないと全体は良くならない（百貨店）。

図表29　現状・先行き判断ＤＩの推移

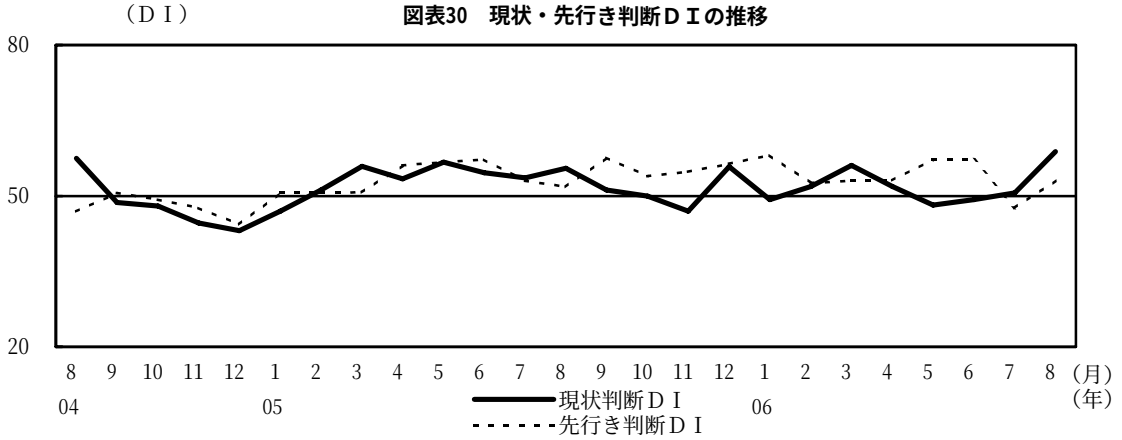


11．沖縄

（◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、✕悪）

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	○	・近隣にダイビング教室があって観光客が多くなっている。その影響で１人当たりの単価が上昇している。また、深夜の買物の単価も高い（コンビニ）。
		□	・時期のずれにより中元は７月はプラス、８月はマイナスであるが、２か月の累計ではほぼ前年並みとなっている。両月とも食品は好調だが、衣料品は紳士、子供を中心に苦戦気味である。紳士服は特に昨年まで好調のかりゆしウェアのマイナスが大きい（百貨店）。
		◎	・家族客が増加傾向にあり、客室内の人数が増え、客室単価が上昇している。周辺のホテルもかなり好調に推移している（観光型ホテル）。
		▲	・前年より10%以上落ちている。業種形態の需要の問題、少子化傾向、今年の沖縄の旧盆時期のずれ、リピーター観光客の増加などが原因として挙げられる（その他専門店[楽器]）。
	企業動向関連	□	・旧盆時期には一時的に受注量が増加したが、それ以外に目立って大きな動きは見当たらない。エアコン等空調機の配送が若干増加している（輸送業）。
		▲	・受注件数が鈍くなってきている（建設業）。
		○	・多少の納入価格値上げを実施している（食料品生産業）。
	雇用関連	○	・短期ではなく、長期の派遣依頼が増えている。また、従来の受付やＯＡ操作より、理学・作業療法士や設計関係など、専門的な職種が幅広く増えてきている（人材派遣会社）。
		□	・採用には依然として強気ではある。しかし、原油高によるコストアップ、金利先高感などにより、企業側に様子見の傾向も多くみられる（学校[大学]）。
	その他の特徴コメント		○：例年の来客数の 115%で推移している。観光客は全般的に好調であるが、地元客は例年より少し落ちている（その他飲食[居酒屋]）。 □：８月は天候も良く、台風の影響も無かったため、来客数が前年より増加した店舗の割合が７月より増えているが、多くの既存店では前年割れが続いている。主力となるドリンクや米飯類の落ち込みが大きく、弁当屋等への客の流出がますます目立つ（コンビニ）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	□	・９～10 月は、稼働率は前年を若干下回るが、単価は上回るため、売上は前年と同程度になる見込みである（観光型ホテル）。
		○	・国道沿いにパチンコ店とホテルが建設されたので、客が増加する（コンビニ）。
	企業動向関連	□	・引き合い及び相談件数が減少しているので、２～３か月後に影響する（建設業）。
		○	・番号ポータビリティや地上デジタル放送の開始を目前に控え、通信・放送業界全体への注目度が高まり、新たな競争環境も活性化するものと想定できることから、クライアントの投資も増大する可能性が高い（広告代理店）。
		▲	・原油高騰は現在も続いておりトラックの軽油などの値上げ要請があって苦しくなっている。さらに、沖縄独自の制度であるふ頭通過料の徴収対象が港運業者や船会社から荷主に変わっているなど、取引先を取り巻く環境の変化などの要因がある（輸送業）。
	雇用関連	□	・２～３か月先の採用予定の求人依頼等をコールセンターなどの大口顧客から受けているが、特にその内容や頻度が変わる要素が見受けられない（求人情報誌製作会社）。
	その他の特徴コメント		○：バブルのころのユーザーや一度きりの利用だったユーザーや、新規で幅広い分野からの依頼が増えており、しばらくは派遣の数字は堅調に維持できる（人材派遣会社）。 □：観光客の増加はあるが実績は前年並みがやっとの見込みである。那覇の大綱引きと世界のウチナーンチュ大会に期待したい（その他専門店[楽器]）。

図表30　現状・先行き判断ＤＩの推移



（参考） 景気の現状水準判断ＤＩ

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 31　景気の現状水準判断ＤＩ

（ＤＩ）	年	2006					
	月	3	4	5	6	7	8
合計		53.4	50.6	48.2	46.3	45.2	47.3
家計動向関連		51.5	48.1	45.9	43.5	42.3	45.3
小売関連		49.8	45.5	43.9	41.3	39.9	44.3
飲食関連		52.1	50.6	45.5	42.6	44.1	40.4
サービス関連		55.2	52.8	50.1	48.0	46.4	48.2
住宅関連		50.9	47.9	46.3	45.5	44.8	46.8
企業動向関連		53.9	52.9	49.9	48.7	48.1	47.6
製造業		54.8	53.7	50.3	50.3	48.6	46.5
非製造業		53.6	53.0	50.2	48.2	48.3	48.4
雇用関連		64.8	61.8	59.4	59.3	57.8	59.4

図表 32　景気の現状水準判断ＤＩ（各分野計）

（ＤＩ）	年	2006					
	月	3	4	5	6	7	8
全国		53.4	50.6	48.2	46.3	45.2	47.3
北海道		47.4	44.7	47.0	40.4	43.0	44.6
東北		46.8	47.3	43.2	42.2	40.4	44.4
関東		54.2	50.7	48.2	46.8	44.2	46.6
北関東		50.9	48.0	45.1	44.8	42.7	45.0
南関東		56.1	52.5	50.0	48.1	45.2	47.5
東海		57.9	53.9	51.5	50.8	46.8	50.0
北陸		53.8	50.0	49.8	47.5	46.2	46.5
近畿		55.1	55.5	52.3	51.3	50.7	52.6
中国		55.7	50.3	49.7	47.8	45.5	46.6
四国		48.6	45.2	40.1	37.1	44.0	43.3
九州		55.0	49.4	46.5	43.0	43.0	44.2
沖縄		56.1	53.8	51.8	51.3	53.0	57.5

（注）景気の現状をとらえるには、景気の方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。